

北海道新聞

2008年

3月18日 四

発行所

北海道新聞社

〒060-8711

札幌市中央区大通西3丁目6

電話 011-221-2111

読者センター

電話 011-210-5888

ホームページ

www.hokkaido-np.co.jp

©北海道新聞社 2008

人と地球にやさしい **TSC**

熱断外 の テスト

ハイパー

検索

TEL.011-611-6600

主な記事



藤原宮
極殿正門
最古の鑄
銭が、字
タイプと
研究所が

藤原宮出土の富本銭は

北大と北京、ソウル、台湾大

連携大学院で研究者育成

北大は、化学分野でのアジアトップ級の研究者を育てるため、北京大、ソウル大、台湾大とともに国際連携大学院を十月に開設する。博士課程の大学院生を対象に、各大学で英語による統一入試や共通の教育プログラムを実施し、合格者の授業料や生活費などは全額支援する。理系分野の研究者の欧米への「流出」を防ぎ、アジアで世界最先端の研究成果を出すのが狙いだ。

世界的な研究を重点支援 代表する大学で、化学分野する文部科学省の「グローバルでも最先端の研究に取り組バルCOE」に昨年六月採

択された、北大の研究事業 北大も、有害物質を無害「触媒が先導する物質科学化するなどの触媒化学の分野で世界最先端の研究を進イノベーション」の一環として実施する。

北大が連携する三大学で国際的研究者と技術者の育成に活用する。は、いずれも各国・地域を

北大によると、学生は日本、中国、韓国、台湾だけでなく、広くアジア各国から募集。定員は各大学十

統一入試 10月開設

学費・生活費 全額支援

で、入学科や授業料、生活費などは各大学が負担。北大の場合は、年間約二百万円を三年間支給する。

六月に実施する選抜試験と入学後の講義、研究指導は、すべて英語で行う。北大で一―二カ月間の集中講義を実施するほか、共同研究や共同シンポジウムなども進めていく計画だ。

国際連携大学院の中核拠点となる北大大学院工学研究科の宮浦憲夫教授(合成化学)は「優秀な若手研究者を集め、世界の先端を走る教育・研究拠点を構築していきたい」としている。

化学分野 「アジアの頭脳」流出防ぐ